

虫たちの中で、世界的に見てもブナ属と強く結びついた種というのはどのような顔ぶれなのだろうか。例えば、フジミドリシジミは近縁種が台湾や中国大陸にも分布していて、やはりブナ属を食樹としている。ブナと共に分布を広げて、各地で種分化を起こしたと考えてよいだろう。チョウ以外では、特に甲虫では、このような種はいるのだろうか。ヨコヤマヒゲナガカミキリなどは、その可能性があると考えている。少なくとも日本ではブナのみを食樹として、北海道を除けばブナと重なる分布を示す。一方、同じブナの生木を食べる種でも、クワカミキリの場合は対照的な例である。非常にブナ属を好むが、種や属の分布から考えると、分布域の北限付近の個体群が食性をブナ属にまで広げたにすぎないのであって、ブナ属との出会いの歴史はおそらく浅いのではないかと思う。さらに、ホソコパネカミキリ属などはまた別の例で、世界各地でそれぞれの土地の極相林を生活の場としているために、日本では一見ブナとの結びつきが強いように見えるのではないだろうか。

遠く中国、台湾などにもブナ属の樹木が分布することは古くから知られていたようだが、最近 *Sibataniophyphrus* 属の蝶の発見によって、にわかになブナ属が虫屋の注目を集めたように思われる。私は他人と同じことをするのが苦手なひねくれた性格をしているので、注目を集めている虫にはそれほど興味をかきたてられないのだけれど、台湾や中国の各種のブナ属の自生地を訪ね歩いてその甲虫を調べ、ブナと共に繁栄し種分化してきた種をさぐり、その起源について考えてみたい、という夢を描いている。しかしながら現在は中国大陸などでは自由に採集ができる場所も限られるようだし、私もこれまで但馬以外はほとんど歩いたことがないから、まずは国内各地のブナ林を歩くことから始めたい。

但馬に通っていたころは、年間を通してひとつの地域の季節が巡る様子を眺めてきた。そこから得た自然観と、地元の人から受けた好意とは、これからも大切にしていきたい。浜坂の城山や観音山に、汽車で2日おきぐらに通っていた時期があったが、ある人から、君はよく出会うから浜坂で家庭教師をしないかと声をかけられたことは、たえず外来者であることを意識して、地元の人に引け目を感じていた私には嬉しい出来事だった。

今回のIRATSUMEの原稿をまとめるにあたり、鳥取に住んだ最初の年の採集記録を拾い出す機会があった。浜坂に自転車置いて走り回り、関宮に行きたくて氷ノ山を越えて歩いた頃、ひとつの種類をたくさん採集することに抵抗があり、頭数を決めながら採っていたことなど、

いろいろ思い出されて懐かしい。いろいろな虫との出会いは今なお鮮やかな感動を伴って蘇るけれど、それは独りの感傷にすぎないから、いちいち書き留めることはよそう。ただ、最近では初めての場所へ出かけても昔のように感動する場面が少なくなった。最も感性が豊かだった時代に過ごした場所が但馬だったということは事実のようだし、いまだに私が但馬の山々にこだわりつづけるのは、上に書いたような興味もさることながら、昔のひたむきだった自分の影を追いかける気持ちがあるからだと思う。もちろん、自然の豊かさも大きな魅力ではあるけれど。

但馬通いの日々

加野 正

今回で「IRATSUME」も20号になる。ということは但馬むしの会も20年つづいたということになる。大変喜ばしいことである。私自身は現在コロンビア国に在住しており、但馬との関わりはなくなったが、一時期但馬に通い、ムシを追いかけた頃があった。

但馬むしの会は、豊岡高校生物部のOBと地元の昆虫愛好家の努力によって創設されたと聞く。私が入会したのは、会の創設後数年たってからだと思う。但馬出身者でなく、また、但馬のムシを調べていたわけでもない私がこの会に加わったのは、鳥取大学の後輩である石田達也氏の勧めによるものである。当時の私は日本の各地を歩き回りチョウを採集していたが、じっくり落ち着いてムシの調査をできる自分のフィールドをさがしていた時期であり、すぐに入会した。私は大阪生まれで、その後兵庫県南部に移り住み、大学時代は鳥取で過ごしたということもあり、地理的にも親近感を抱いた。自分のフィールドでムシを調べるといのは、コレクションとはまた一味違ったムシの楽しみかたができる。

入会当時はちょうど大学での卒論研究をしている頃であり、続く2年間は大学院の修士課程で修論研究を行っていたので、但馬との関わりは薄かった。私が積極的に但馬に通い始めたのは、大阪の某薬品会社に就職して後の1980年以降である。1986年に青年海外協力隊でコロンビアに派遣されたので、実質6年間ほどである。

大阪在住の谷角素彦氏、京都在住の足立義弘氏、少し遅れて入会した島田真輔氏そして私の4人がよく一緒に但馬に通った。当時我々の間では、京阪神支部と自称し